

氏 名	李 彰美
学 位 の 種 類	博士（観光学）
報 告 番 号	甲第380号
学位授与年月日	2014年9月19日
学位授与の要件	学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号) 第4条第1項該当
学 位 論 文 題 目	韓国のヘルスツーリズムにおける健康・美容認識に関する研究
審 査 委 員	(主査)橋本 俊哉 東 徹 豊田 三佳 劉 亨淑（東義大学校 商経学部ホテル・コンベン ション経営学科 准教授）

## I．論文の内容の要旨

### (1) 論文の構成

#### 第1章 序論

1. 研究の背景と目的
2. 研究の構成と方法
3. 先行研究
  - (1) 1980・1990年代
  - (2) 2000年代
  - (3) 2010年代
4. 本研究の位置づけ

#### 第2章 行動成立のしくみからみるヘルスツーリズム

1. ヘルスツーリズムの概念と形態
  - (1) ヘルスツーリズムの概念
  - (2) ヘルスツーリズムの形態
2. 観光行動成立のしくみにおける発動要因と誘引要因
  - (1) 行動成立のしくみ
  - (2) 観光行動成立のしくみ
  - (3) 観光行動成立のしくみにおける発動－誘引要因
  - (4) 発動－誘引要因としての健康と美容
3. 観光の発動要因における健康と美容
  - (1) 「観光動機」の先行研究にみる健康と美容
  - (2) 旅の発動要因にみる健康認識
4. 観光の誘引要因としての健康と美容
  - (1) ヘルスツーリズムの現状にみる健康・美容要素
  - (2) 韓国のヘルスツーリズムにみる健康・美容要素
5. 考察

#### 第3章 健康・美容関連行動としてのヘルスツーリズム

1. 歴史にみる健康と美容
  - (1) 健康にかかわる歴史
  - (2) 美容にかかわる歴史
2. 健康・美容認識に関する考察
  - (1) 健康観と美意識の東西比較
  - (2) 東洋の健康・美容認識の背景にある伝統思想
3. 健康・美容関連行動とヘルスツーリズムの関連分析

- (1) 健康・美容関連行動の概念
- (2) 健康・美容関連行動とヘルスツーリズム形態の関連
- (3) 健康信念理論からみたヘルスツーリズム

#### 4. 考察

### 第4章 韓国の伝統的健康・美容認識に関する考察

#### 1. 健康関連行動の変遷

- (1) 疾病治療
- (2) 沐浴・温泉
- (3) 養生

#### 2. 美容関連行動の変遷

- (1) 化粧
- (2) 服飾

#### 3. 健康・美容関連行動の特徴

- (1) 健康関連行動の特徴
- (2) 美容関連行動の特徴

#### 4. 健康・美容における伝統的認識

- (1) 健康に関する伝統的認識
- (2) 美容に関する伝統的認識

#### 5. 考察

### 第5章 韓国における健康・美容認識の現代的展開

#### 1. 現代における韓国の健康・美容認識

- (1) 調査の目的と方法
- (2) 日韓の健康・美容認識分析
- (3) 日韓比較からみる韓国の健康・美容認識

#### 2. ヘルスツアー商品を通してみる韓国の健康・美容認識

- (1) 日韓のヘルスツアー商品の事例分析
- (2) 日韓比較からみる韓国の健康・美容要素
- (3) 日韓比較からみる韓国の健康・美容認識

#### 3. 考察

### 第6章 結論

参考文献

巻末資料

## （２）論文の内容要旨

健康や体力の回復・維持・増進、病気予防に主眼をおいた観光形態であるヘルスツーリズムは、自然療法から医療行為、美容サービスまでを包含する幅広い概念である。本申請論文は、観光主体のもつ動機の認知的側面（「健康・美容認識」）に着目した分析を行うことにより、韓国のヘルスツーリズムの特徴を明らかにするとともに、観光行動成立のしくみにおける動機の認知的側面の位置づけについて、理論的に明確化を図ることを目的としている。

本申請論文では、ヘルスツーリズムの概念と形態を整理し、観光行動成立のしくみの中で健康と美容を位置づけ、健康・美容関連行動とヘルスツーリズムの関連を分析したうえで、史料にみられる健康・美容にかかわる行動の分析、日本と韓国の若者を対象とした意識調査、日本と韓国のヘルスツアー商品の比較分析等を行った。これらの分析を通して、伝統的な健康・美容認識が、現代のヘルスツーリズムの展開に重要な影響を与えていることを明らかにし、その成果をもとに観光行動成立のプロセスを理論的に検討し、ヘルスツーリズムが各国で多様な展開がみられる理由について考察している。

### 各章の概要

#### 第１章

本章では、研究の背景と研究の目的、研究の構成と方法、そして先行研究の考察をもとに、本研究の位置づけを示している。本研究は、多様な展開がみられるヘルスツーリズムについて、行動主体がもつ心理的原動力に着目した分析を通して、行動成立のしくみを理論的に検討している。

#### 第２章

本章では、行動論的視点からヘルスツーリズムにおける健康・美容の位置づけを明らかにしている。行動成立のしくみは、発動要因と誘引要因の両側面から説明することができる。発動要因と誘引要因は互いに影響し合っており、歴史を積み重ねて形成されてきた社会的信念（発動要因）と観光地や観光商品の魅力（誘引要因）は、観光行動に直接的・間接的にかかわっている。ヘルスツーリズムにおける発動要因（「健康・美容認識」）については、健康にかかわる旅の歴史を概観し、洋の東西を問わず、温泉水や鉱泉水などの治療効能に対する「信念（健康認識）」が発動要因としてはたらき、人々を温泉地に移動させていた。誘引要因（「健康・美容要素」）については、ヘルスツーリズムの先進諸国の現状から、健康・美容要素がいかに機能しているかについて考察し、自然（温泉、森林、海洋など）による健康増進プログラムを提供する日本、マッサージ、トリートメントや最新医療に力を入れているタイ、安価な最新医療と伝統医療を提供するインド、自然と医療の融合を図るドイツなど、国家によってヘルスツーリズムで具体的に展開されている健康・美容要素が異なっていることを明らかにしている。

### 第3章

本章では、健康・美容関連行動としてのヘルスツーリズムについて多角的な分析を行っている。まず、西洋と東洋における健康・美容関連史を概観した結果、東洋の健康観と美意識には「陰陽五行思想」が深く関与していることを明らかにしている。「陰陽五行」は東洋哲学における宇宙の根本原理であり、漢方医学・針灸の根本原理ともなっている。また、陰陽五行は飲食文化にも適用されており、日頃の飲食を調節することで気の不調和を抑えることができるという「医食同源思想」につながっている。体に良い食材を日常的に摂取して健康を保てば、特に薬などは必要とならないといった薬食同源の考えは、薬膳として広がった。また、健康と美容が深くかかわっていることが認められたため、健康関連行動を対象とする「健康信念理論」を用いた既存研究にみられる健康関連行動と、ヘルスツーリズムの中で行われる健康・美容関連行動との間の関連性を分析し、ヘルスツーリズムにおいても「健康信念理論」が適用可能であることを明らかにしている。

### 第4章

本章では、史料、新聞の分析と文献研究によって韓国の健康・美容関連行動の変遷について考察を行い、韓国の伝統的な健康・美容認識の特徴を明らかにし、さらに、韓国の伝統的な健康・美容認識について考察している。健康認識においては、東洋の伝統的思想である陰陽五行思想と医食同源思想、また、心身一元論による有機論的健康観がみられた。東洋における他国と比べると「韓方への厚い信頼」が韓国独特の特徴といえる。韓国では、薬草学を創始した中国よりも早く国家医療機関で薬師が設置され、迷信的医療が広がっていた時代に薬の飲用が推奨されたこと、中国の漢方から韓国独自の韓方が生み出されて民間に広く普及したこと、韓方が沐浴・温泉、養生など庶民生活の隅々にまで広がっていたこと等から、韓国人が韓方の治療効果に対して厚い信頼を寄せていたことがわかる。美容認識においては、調和の美や内面の美が重要視される東洋の美意識のなかで、韓国では独特の「霊肉一致思想」が美容の歴史全般にみられ、とりわけ朝鮮時代は、内面の美が強調された婦女子にも外見の美に対するこだわりが多くみられる。当時の女性は美への強い欲求や期待を持つとともに、美の追求を怠るとやがて醜い容貌になると考えていた。このような韓方への信頼と美容へのこだわりもまた、韓国の特徴である。韓国の健康・美容に対する伝統的認識は、観光行動成立のしくみにおける発動要因に位置づけられるもので、歴史を積み重ねて形成されてきた韓国の伝統的健康・美容認識は、観光行動を引き起こす原動力となって、現在の韓国の独自のヘルスツーリズムの展開につながっているものと考えられる。

### 第5章

本章では、韓国の伝統的な健康・美容認識の現代的展開について考察している。まず、

日本と韓国の健康・美容認識を男女別に分析した結果、韓国では、男女を問わず韓方への信頼も厚く韓方治療への関心も高いこと、日本よりも健康診断や治療・韓方治療が体験できる旅行への参加意向も高いことを明らかにした。美容認識については、日本と比べて韓国は男女ともに、韓方美容への信頼や関心が高く美容施術やエステの効果や期待も高く、また男女を問わず、韓方美容やエステが含まれた旅行への参加意向が日本よりも非常に高い等、美容へのこだわりがみられる。次に、日本と韓国のヘルスツアー商品の比較分析を行い、日本では健康面での効果を強調しすぎず、自然による癒しをアピールすることが多いのに対し、韓国では医療と健康に重点が置かれやすいこと、韓国では、病気のかかりやすさが強調され、早期発見の完治率がアピールされており、末期癌などの危険性が強調されていること、病気治療における医療技術のアピールや健康診断の予防効果などといった健康関連行動のメリットと、韓方の美容効果の優秀性や韓国式サウナ・エステによる美肌効果がアピールされていることなどを明らかにしている。韓国のヘルスツアー商品には韓方の積極的活用による韓方への信頼と、医療や関連施設を美容にさまざまに活用していて、美容へのこだわりがみられ、最新医療、韓方、韓方美容、エステなどの健康・美容要素（誘引要因）を活用した健康・美容関連行動が取り入れられており、その中には韓方への厚い信頼と美へのこだわりという健康・美容認識（発動要因）が反映されていると考えられる。

## 第6章

本章では、5章までの分析をふまえて結論を述べている。韓国において歴史を積み重ねて形成された伝統的健康・美容認識は、韓国人の観光行動の発動要因として機能し、ヘルスツアー商品にみられる韓方、韓方美容、エステなど、誘引要因となる諸刺激によって顕在化している。韓国人の日常生活における健康関連行動・美容関連行動にみられる健康・美容認識は、ヘルスツアー商品から抽出された健康・美容認識と共通点がみられ、ヘルスツーリズムには、健康・美容に対する日頃の関心によって、より多様な健康・美容関連行動を求めるようになった現代の韓国人の意向が反映されていると考えられる。とくに、日頃の健康関連行動には経済的・時間的なコストの負担の少ないものが求められているのに対し、ヘルスツーリズムに関しては、このような負担があったとしても行動が具体化する。それは、ヘルスツーリズムに含まれる「楽しみ」の要素により、経済的・時間的なコストの負担に対する抵抗が減少したためである。美容関連行動は健康関連行動よりも日頃からレジャー活動的な意味をもっており、様々なコストに対して寛大なのである。このような韓国のヘルスツーリズムを観光行動のしくみに位置づけると、まず、社会的・文化的に形成されてきた伝統的な韓方への厚い信頼と美へのこだわりが動機の認知的側面（健康・美容認識）を構成して行動主体の心理的原動力となり、発動要因として機能し、誘引要因（ヘルスツアー商品の韓方、韓方美容、エステなどの諸刺激）との相互作用を経て、ヘルスツーリズムへの「態度」を形成し、ヘルスツアーへの参加を促している。このように、韓国独自の伝統的な健康・美容認識は、動機の認知的側面として現代の韓国人に受け継がれ、

他国とは異なる「進化」を遂げるヘルスツアー商品を通して再構築されていくものと考えられる。健康・美容に関する伝統的認識が観光行動にいかに関現しているかを理解することができれば、各国におけるヘルスツーリズムの展開の様相を理解し、説明する際の理論的基礎となる。そうした意味において、本研究はヘルスツーリズム全般に適用可能な観光行動の理論的フレームワークの構築に、新たな示唆を与えるものである。

## Ⅱ．論文審査の結果の要旨

### (1) 論文の特徴

本申請論文は韓国のヘルスツーリズムを直接の研究対象としているが、観光行動成立一般のプロセスにおいて、これまで直接研究対象とされることが少なかった動機の認知的側面に着目し、それを形成する文化的背景や社会的に学習された知識が、観光主体の態度形成に影響を与える重要な要因であることを明らかにすることにより、文化による観光行動の相違を説明するための理論的枠組みを示した点に特徴と独自性を有している。また、韓国のヘルスツーリズム研究において、健康や美容の側面に着目する研究はみられるものの、これらの両側面がともに重要であるとの認識にたつて分析せんとする研究は本申請論文独自の視点である。これらの理由から、本論文は韓国のヘルスツーリズムを対象とした、高い独自性を有した社会科学研究であるといえる。

### (2) 論文の評価

上記の通り、本研究は、韓国のヘルスツーリズムを研究対象とした多角的な分析により、観光行動研究分野における理論的貢献が認められ、ヘルスツーリズムが世界的に多様な展開をみせている理由を文化的背景から説明する理論的な枠組みを提示した研究として評価することができる。また、韓国のヘルスツーリズム研究としても独自の分析視点を有していることから、審査委員会は、本申請論文は観光研究において高い独自性を有しており、今後の発展性が期待でき観光研究に大きく貢献するものとして、博士の学位に相当するとの見解で一致した。